

(臨床研究に関する公開情報)

当院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究にカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

研究課題名；外傷全身 CT 撮影における被ばく線量 (CTDIvol と DLP) の実態調査 2022

研究代表者；神戸赤十字病院 放射線科部 宮安孝行

提供責任者；北海道大学病院 医療技術部 放射線部門 孫田恵一

研究の背景；

2020年にJ-RIMEより新たに発表されたDRLs2020の中で、初めて外傷全身CTの診断参考レベルが明示されました(DLP 5800mGy・cm)。さらには、診療用放射線に関する安全管理を盛り込んだ医療法施行規則の一部改正が2020年4月より施行されることとなり、医療被ばくの最適化や医療被ばくの線量管理、線量記録が各施設で義務付けられました。以上の背景により、各施設ではこの診断参考レベルを基準として撮影条件の検討がなされていると推察されます。しかしDRLs2020発表後、国内の外傷全身CTの被ばく線量の動向について、調査を行った報告はありません。

研究の目的；

外傷全身CTを施行された症例の被ばく線量(CT装置に表示されるCTDIvol〔mGy〕とDLP〔mGy・cm〕)の再調査を行うとともに、診断参考レベル(DRLs2020)が発表された後の国内における外傷全身CTの被ばく線量の現状を把握することを目指しています。さらにはこのデータを基に国内の外傷全身CTの診断参考レベルの指標改訂に結びつくような調査を目指します。

研究の方法；

外傷全身CT加算の施設基準を満たした、全国に救命救急センターとして登録している、290施設が対象。対象患者はCT検査にて、外傷全身CT(頭部から少なくとも骨盤部まで)を撮影した者を対象とします。成人の一般的な標準体型を調査するため、対象年齢は20~80歳。対象体重は50~70kgとします。

対象期間は原則として、DRLs2020が公表された2020年7月から2022年12月31日までの間に施行された患者とする。

研究期間：2021年4月1日~2023年3月31日(実施許可日の状況により延長する可能性あり)

利用する情報；

研究対象者について、各施設で以下の項目の集計をおこない、対象者集団のCTDIvol〔mGy〕とDLP〔mGy・cm〕の中央値等を調査します。各施設の標準条件で検査を施行さ

れた、30 症例を集計します。各施設の CT DIvol [mGy]、DLP [mGy·cm] の連続変数の要約 (最小値、25% 値、中央値、75% 値、最大値) を集計し、日本国内の CT DIvol [mGy]、DLP [mGy] の中央値等を算出します。

情報の管理

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

研究代表者；宮安孝行 神戸赤十字病院 放射線科部

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 3-1 T E L 078-231-6006

共同研究者

りんくう総合医療センター 放射線技術科 藤村一郎

札幌医科大学附属病院 放射線部 小倉 圭史

福島県立医科大学 診療放射線科学科 田代 雅実

東北大学病院 診療技術部 放射線部門 小野勝範

国立病院機構水戸医療センター 放射線科 田中 善啓

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 医療技術部 放射線科 大保勇

岡山大学医学部附属病院 医療技術部 赤木憲明

済生会熊本病院 中央放射線部 坂本 崇

済生会熊本病院 中央放射線部 高本聖也

国際医療福祉大学成田病院 放射線技術部 五十嵐隆元

りんくう総合医療センター 放射線技術科 西池成章

既存情報の提供のみを行う機関

外傷全身 CT 加算の施設基準を満たした、全国に救命救急センターとして登録している、
290 施設

(日本救急医学会 HP <https://www.jaam.jp/about/shisetsu/qq-center.html> (2020 年 12 月 20 日参照)

問い合わせ先

亀田拓人 北海道大学病院 医療技術部 放射線部門

北海道札幌市北区北 14 条西 5 丁目 電話 011-716-1161